

**城南会 包括支援センター 管理者 濱川尚志 氏**

公民館と包括と情報を共有しており、法人としては買い物支援は継続している。

**百栄 管理者 山城正子 氏**

コロナ終息後、防災避難訓練をしたい。

**彩風の杜 係長 國吉俊祐 氏**

- 積極的に地域と関わり関係機関へと繋いでいきたい。
- 小中校の福祉講話を今後行っていきたい

**ニライカナイ 事務長 豊村英 氏**

- 相談・関係機関、学校、教育委員会から児童の相談を受け、民生委員・児童委員や事業所と連携している。
- 福祉講話を実施した真和志高校卒業生が職員になった。

**すがやま保育園 園長 新里順子 氏**

最近、保護者や近隣からの相談ができた民生委員・児童委員に誘われたが、仕事内容がわからなかったため、今回の話を聞いて興味を持った。

**ペリー福祉会 理事長 賀数博 氏**

頁3参照

**あやめ保育園 園長 金城祐佐 氏**

- 食料支援に協力していきたい（園長会での呼びかけは可能。保護者へ配れるチラシがあれば取り組みやすい）
- 独居高齢者宅へのお散歩コース挨拶活動について 散歩対象者の選定について民生委員・児童委員、自治会から情報がいただければ可能

**沖縄にじの会 事務長 山城楓 氏**

食料支援活動は以前から実施している  
○古蔵中学に団体に集まり食料支援物品提供を実施。この活動に参加しながら今後の運営の参考にしていきたい。

**日本赤十字社沖縄県支部 事業推進課長 池原栄作 氏**

コロナ終息後は  
○防災セミナー、災害時における高齢者の支援方法、幼児の救急法、健康生活支援の講習等を学校単位、施設単位で実施が可能なので、できることを協力していきたい。

**看護小規模多機能小祿 相談員 福里ひろみ 氏**

- 相談内容によって他の機関へつないでいる
- コロナ終息後は
- 高良小学校の朝の立哨に参加したい（認知症高齢者と職員と一緒に活動して地域貢献）
- 福祉教育を大切にしていきたいので、小中学校へ出向き講話を実施したい。

**社会福祉施設等から多くの寄贈を頂きました。**

皆様から寄贈いただいた物品は、様々な事情を抱えておられる生活困窮者世帯に配布されましたが、9月17日より、コロナによる自宅療養者宅へも届けられました。那覇市内の社会福祉施設の皆様におかれましては、引き続きちゅいネットなのはの食料提供（フードドライブ運動）について、ご支援をお願いいたします。



ポプラ福祉会  
ポプラ子ども園



コロナによる自宅療養者宅  
に届けました



ニライカナイ hoccooripon

**2021年（令和3年3月1日～10月4日現在）合計 2,867点**

1 就労支援サービス株式会社 代表 大畑昭康	9 相談支援センターテイクオフ 代表 佐藤誠
2 小規模多機能ホーム安岡 代表 長堂和男	10 そてつの会 代表 仲真良勝
3 就労支援センターふくぎ 代表 国吉正人	11 乙羽会グリーンハウス国場 代表 我喜屋宗重
4 アルプスセンター 代表 岡田拓也	12 うるま福祉会 玉の子保育園 代表 高良桂子
5 障害者就労支援センターさわやか 代表 高嶺豊	13 正清会 久田病院 代表 与儀英明
6 沖縄中央福祉会彩風の杜なは 代表 安里富士子	14 南部療育医療センター（旧沖縄整肢療護園） 代表 當山潤
7 ゆうなの会 代表 神谷幸枝	15 ニライカナイ hoccooripon 代表 豊村良春
8 からし種の会 アトリエ種子 代表 棚原信子	16 ポプラ福祉会ポプラ子ども園 代表 崎濱盛喜

**フードドライブ（食料提供）運動のご案内**

- 募集期間** 令和3年（2021年）3月1日（月）～随時受付
- 募集内容** □米（2019年度、2020年度、2021年度米） □缶詰 □レトルト食品 □カップ麺 □防災品 □お菓子  
※全て未開封、賞味期限3か月以上あるもの ※特にお米の支援ニーズが多くなっています
- 受渡場所** 那覇市社会福祉協議会（那覇市総合福祉センター）tel.098-857-7766 担当：山城章

事前に下記の内容でメールまたはFAXをお願いします  
**那覇市社会福祉協議会へ** ○月○日 時間帯（午前・午後/○時）頃に届けます。  
**fax 098-857-6052 mail 1101tyui@nahasyakyo.org**  
 届け先／那覇市社会福祉協議会（那覇市総合福祉センター）住所／那覇市金城 3-5-4

**なは地域貢献便り11月**

「なは地域貢献便り」は、那覇市内の社会福祉法人等施設が、地域の応援団として取り組む情報誌です。

**令和3年度 第2回～4回那覇市社会福祉法人等施設連絡会の概要報告**

今後のちゅいネットなはの取組について、相談・食料支援・福祉教育の3分野の部会でご意見を頂きました。今回は地域福祉活動の要である那覇市民生委員児童委員連合会 宮平智事務局長、那覇市自治会長会連合会 上原幸吉会長をお招きしお話を伺いました。紙面の都合上、主にゲスト2団体のご意見を抜粋し掲載いたしました。

**那覇市民生委員・児童委員連合会**



相談支援と連携

- 地域の民生委員・児童委員と自治会について相談協力できるとの意見が多かったことに驚きと同時に期待が高まっている。
- 民生委員・児童委員は本来それぞれの地域の中で自ら出向き、困っている方を見つけて支援することが主な活動。しかし、現在は、コロナ禍で活動が厳しい現状。また、民生委員・児童委員を知っている人が少ない、欠員が多いなどいろんな要素が重なり更に活動しにくくなっている。社会福祉施設等と連携が密になる事により地域に相談拠点が広がることは、市民が相談しやすくなるし市民へ民生委員・児童委員活動の理解周知も広がる。

**福祉拠点とし他地域の居場所として**

- 法人からテーブル、椅子等を含めた場所の貸し出しがあった場合はとても助かる。
- 民生委員・児童委員は福祉施設等の拠点がなく定例会などの集まる場所がないので拠点を提供してもらえると助かる。
- 民生委員・児童委員に相談したい人がどこに民生委員がいるのか知らない。福祉施設に拠点を提供して頂ければ市民の相談窓口が広がりとても助かる。

**那覇市自治会長会連合会**

- 社会福祉法人が地域で活動していることを初めて知りうれしく思う。那覇市の自治会は150自治会。地域には困っている方がたくさんいる。今後も同じ思いがある団体が増えてもらいたい。
- 那覇市自治会連合会は、行政、民生委員・児童委員、社協と関わりがある。自治会が公民館を持っていれば地域住民とのかかわりを持ちやすいが、拠点のない自治会が殆どで連携が難しい現状であり、福祉施設等の拠点の在り方が期待されている。

**食糧支援**

コロナ休校の際、社協での地域団体と連携してお弁当の配布は素晴らしい。地域が一番助かるのは食料支援。高齢者の分野でも食料支援を自治会として取り入れていきたい。自治会は現在活動中止。会議も十分にはできていない。普段から学校から貧困について情報はない（個人情報観点から）が、実際に困っている世帯が存在する。今後は包括、行政、社協、施設等関係団体が集まって情報交換をすることが大切。見守り隊も食料支援を通して、見守り活動をしていきたいと思っている。

**相談窓口と地域の居場所としての拠点**

相談窓口に関しては、社会福祉施設等の法人から場所の貸し出しがあった場合はとても助かる。地域行事に参加しない高齢者、行き場のない人（引きこもり、独居）の方の外出のきっかけとしていきたいし、安定して話せる場所があるということはとても良い。ぜひ見守り活動の拠点として協力頂きたい。



那覇市自治会長会連合会  
会長 上原幸吉 氏

**参加団体の意見集約—相談・食料支援・福祉教育**

**石嶺児童園 園長 上原裕 氏**

一般の方向けの相談機能設置まではできないが、アドバイスはできる。

**うるま福祉会 理事長 高良桂子 氏**

フードバンクについて園だよりで呼びかけたことが始まり、保護者、職員からも食料提供の支援があった。

**雅福祉会 理事長 兼城照美 氏**

日頃から顔を出し、声掛けしていくことを大切にしていきたい。2件、食料支援をした。社協を通して距離感が近づいた。

**ポプラ保育園 理事長 崎濱恵利子 氏**

関係機関との繋がりは未だですが、フードドライブは今後、取り組みたい

**ゆうなの会 次長 金城満 氏**

コロナ終息後、学校のリクエストによって対応していきたいと思っている。栄養士の福祉教育も学校との調整しだい可能

**一般社団法人ハーネス 理事長 嘉手川重一 氏**

民生委員・児童委員への場所やテーブルイス等の貸し出し提供可能・共同売店の場所を、相談場所としても提供可能

**正清会 久田病院 事務長 久田謙雄 氏**

福祉講話は、心理士の目線での講話も可能。偏見をなくすることが専門機関としてとても大切。無料塾に23名ほどの登録者がいる。随時、社協に食料提供をさせて頂いている。

**繁多川公民館 館長 南信乃介 氏**

登校支援・自治会とシェアマーケットを実施している。真和志地区の自治会と必要な情報交換を行っている。●相談窓口としての活用は公民館の役割

裏面ページへ続く



# 小規模法人奮闘記

社会福祉法人・企業との連携 からし種の会アトリエ種子

からし種の会 理事長 棚原信子 氏



## からし種の会の粋な計らいに感謝

去る8月16日(月)からし種の会アトリエ種子では、社協、首里地区の民生委員児童委員、子どもの居場所を支援している団体を通して施設の手づくりコロッケバーガーを、100個(34世帯)届けて子どもたちの手に渡って喜ばれました。(民生委員57個12世帯、子ども食堂43個22世帯)

配達の前に、民生委員・児童委員が集合し、出発式を行い、理事長の棚原信子氏から、「昨年、地域の子供達を招待してパン作り教室を開催しました。コロナ禍で断念しましたが、今年は交流の仕組みを変えて、子ども達に施設で作ったコロッケバーガーを食べてもらおうと思い、つくりました。喜んでいただけたら幸いです。」「地域の方々と触れ合う、笑顔あふれる場所にしたい」と想いを語ってくれました。首里第3民児協の小笠原文子会長は、「いつも見守り活動にはご協力をいただいています。今回も粋な計らいに感謝しています。」と話されました。

この取組の前進である、子どもパンづくり教室は、社協も、子どもの居場所支援に関わる「糸」やCSWも協力し、施設が気軽に集まれる場所(SOS発信の場)、こどもたちに福祉施設を理解してもらいたい(福祉教育)と好評でした。

夏休み、思い出づくりとして、障害者施設が特別な場所ではなく、身近な存在として、ひいては参加した子供たちが、不登校の子のモノづくりへの意欲をかきたて(デザイン科)高校進学など将来の夢へつなげるきっかけにもなりました。



手作りコロッケバーガー 100個贈呈式



民生委員・児童委員から子供たちへ届けられた



## 企業とのコラボ企画 功を奏す

首里平良町に店舗を構える便利な街の電気屋さん トレンドとなみ(代表者 西平明)では、6月より、地域貢献の一環として、近隣福祉施設であるからし種の会アトリエ種子のパンを買い取り、自らの電気店舗で、アトリエ種子のパンを店頭販売しています。

激化する家電量販店のなかで、障がい者の作るパンを通して福祉施設の啓発に一躍を担っています。高齢者への電球一本でも取り換えるフットワークと家電に苦手な主婦や高齢者がパンを買いに来るついでに身近な街の電気屋さんとして相談が出来る機運が高まっています。今後は、他のお店にも就労支援所を支援する取り組みを期待したいです。



トレンドとなみ(中央は代表西平明氏)でのアトリエ種子のパン販売の様子

## 地域の憩いの場として 高齢者の居場所に提供

地域包括支援センター大名では、地域の身近な憩いの場として拠点を探していたところ、障害者の就労支援施設、からし種の会アトリエ種子は、「世代を超えた交流を通して、互いに思いやり、助け合う居場所を作りたい」との想いから、休みの日に2階の作業場を提供し地域包括支援センター大名の事業に協力しています。

認知症カフェ(さんて・カフェ)として毎月第1土曜日(2019年2月開始)の午前中に開催され地域の高齢者からは大変喜ばれています。地域包括支援センター大名の仲里衣愛所長は、「地域で福祉施設が活用できるのはとてもありがたいです。おなじ福祉施設として様々な相談にも応じて頂けて助かっています。」と話していました。



さんてカフェの様子 さんてカフェはフランス語で健康

# ペリー福祉会の実践と地域連携

社会福祉法人 ペリー福祉会 ペリー保育園 園長 賀数博 氏



## ペリー保育園の足跡

園事務所には1966年園舎落成の文字が刻まれた柱時計が今でも子ども達を見守り、時を知らせています。(この柱時計はネジを巻かなければ止まります。)

戦後まもなく那覇軍港にて港湾労働者が増え、誰もが必死に働いている頃、当園の前身である「ペリー劇場」はその港湾労働者の疲れを癒す場所でありました。ある日、ほろりが舞い上がる通りにて米軍トラックによる子どもを巻き込んだ交通事故を目撃した前園長は、事故に遭ったその子の親を探しました。しかし、戦後間もない沖縄は保育園も少なく共働きの家庭の子は、子どもが子どもを見る時代であった。そこで「地域の子供もは地域で守らなければ」という思いでペリー保育園を設立することとなった。

当時は認可外保育園で「どの子も、どの親にも手を差しのべる」という保育理念の基、重いアレルギー疾患児のために代替え食を探し回り、重い障がい児にはその子に合った椅子やテーブルを手作りで用意する等、様々な家庭事情の子ども達を保育し、2011年現在の園舎を新築、2015年社会福祉法人ペリー福祉会ペリー保育園として地域に根差す認可保育園となりました。

## コロナ禍における地域連携

地元山下町自治会へも参加し、今年度自治会ではコロナ禍であるため、昨年に引き続き敬老の日の取り組みとして、80歳以上の会員へ長寿とご健康を願い、心ばかりのお祝いの品を用意しました。自治会からは菓子折りと盛花を、当ペリー保育園は子ども達と保育士が協力し「ミニハンディモップ」を制作しました。那覇市社会福祉協議会からもご協力いただき「緊急医療情報キット」も合わせて令和3年度は80歳以上の会員、88の世帯にプレゼントすることが出来ました。

孫に囲まれて嬉しそうな米寿を迎えた会員



敬老の祝いに緊急医療情報キットもプレゼント



## 防災への取り組み

コロナ禍では様々な行事や取り組みが制限される中で、今できることは何かを全職員で考え子どもに特化した防災活動に取り組むことになりました。非常時の備蓄用品はローリングストック方式を採用し、非常食の試食やAED訓練等を行います。毎月園児と行う避難訓練内容の中にアレルギー児にはビブス着用にて訓練します。これは万一災害が起こった時、良かれと思って子どもに菓子等を与える人から、アレルギー児を守るために大事な事なのです「自主防災備蓄倉庫」も設置し、子ども達が被災しても安心して過ごせるよう、遊び道具やアレルギー対策等の訓練を行っています。

前園長の思いを継承しながら、「子どもの現在(今)を最も良く生き、望ましい未来(明日)をつくり出す力の基礎を培う」保育園へと精進していくことを目標とします。



ローリングストック方式



自主防災備蓄倉庫



アレルギー児ビブス着用イメージ



避難訓練の様子



ペリー保育園ロゴマーク